



武江年表

三



武江年表卷之五

延享元年甲子

二月十八日改元

二月朔日より湯島天満宮境内をて下野若松地を開帳○同日より市谷
 八幡宮地主茶本稻荷社開帳○二月六日夜子と刺天中央より少一西の方一
 ○如以星現るる加瑞之といふ○二月より護國寺を武州新嶽山藏王
 権現開帳○二月より浅草寺内松尾明神開帳○二月十五日より三日の
 若中村劫三節芝居自初の初年より百二十一年の壽狂言奥行○矢口
 新田社廟の碑を立南郭文を撰次○四月三日儒師山本吹丈平名信一柳島
法性寺小葉
 ○約辺朝日山王宮營建○四月朝日浅草光感寺尚麻黎毛曼茶を
 持せし四月より護國寺之上品碓氷郡松井田金剛寺土面親世音

雄水定光

伊勢

○四月朔日より赤川八幡宮境内にて
守本尊 伊勢

○六月十五日 神道 岡田盤中卒 名正利林丸を
夏より冬まで徳園風邪流行 ○六月十五日 学者 岡田盤中卒 七十八歳没

乃幸

○七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢鉢用帳 ○七月
小葬

○七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢鉢用帳 ○七月
小葬

○七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢鉢用帳 ○七月
小葬

○七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢鉢用帳 ○七月
小葬

○七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢鉢用帳 ○七月
小葬

○七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢鉢用帳 ○七月
小葬

○七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢鉢用帳 ○七月
小葬

○七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢鉢用帳 ○七月
小葬

○七月朔日より回向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢鉢用帳 ○七月
小葬

延享二年七月

十二月

二月初日より茅場町茶師境内にて信及蓮池院源訪奉地務軍ふ勤号開帳

○二月六日龜戸天満宮近隣の在家より火出く元祖信松が建立せし社以下一宇
も跡も焼亡せり ○二月より淡谷長谷寺大徳親世音所首仏開帳 ○月十一日

より回向院より上洲根山正法寺親世音開帳 ○二月十二日五時五十分迄谷より
出火青山跡ら後園麻布三軒家本村水川社若福寺門前廣尾白合村二面保

町子白金瑞聖寺後町車町寺輪南小糸川連焼亡 武家町巻懸く 翌十三日
鎮守言滿如來寺小立なる但唱か他火六の仁王号に在像并地務等の石像も

焼亡せり方方 白金細川後山一社の辺伊四子の
○四月朔日より淡谷実松寺
にて常陸小金井妙徳寺日蓮上人開帳 ○月日より回向院にて撰別茶碓山藤一

寺圓光大師引接跡地如來開帳 ○月日より牛込四福寺にて相洲妙徳寺
寺

寺

寺

寺

寺

寺

降梅日蓮上人像開帳○同日より所苑前八幡宮内にて信明為界山建龍寺不

動為開帳○同月二日より本所寺の目大佛勧進不之南於大寺二月堂觀

世音鉢陀如來開帳○四月より護國寺蟹清水出現茶師自坊より開帳○

四月十八日書家関口黄山卒名忠貞 小日向金剛寺小葬○七月朔日より伊勢朝熊岳金剛

經寺虚空藏井田向院より開帳○八月六日より茅場町茶師内より相助金

目山坂東七番目聖觀音開帳○八月十九日大風為芝浦辺竜巻あり○九月十

四日大風家徳を換後草福井町根杏八幡の 浪杏古樹次坊○十月十日儒師長次東海卒名五字元下 你河津藤葉

延享三年丙寅

二月朔日より隅田川本母寺梅若丸寺本寺文殊菩薩開帳○同日より雜司谷

本納寺より相州系教寺休息日蓮上人開帳○二月廿九日夜は晴芳榮地本納寺

昭武家方より火下とこの邊武家方一處南八町燈本八町燈茅場町小細町大

坂町燈町草花町芝居為座村杉町檜町北邊武家方より喰町濱町日羽町米沢

町本所小泉町横綱町相相堂町龜澤町邊武家方淡島より小堀米中より延焼

翌朔日夕七ツ時燒淡草寺の東側の 坊舎の未刻燒○二月晦日昼本所美山寺横焼より出火大

風此辺の寺院多く燒亡○三月より淡草寺内松壽院丈六每丈天隱藤像開帳

○書家赤井得水卒林文次郎 伊勢町住○四月朔日より喰上寺常照院阿久 芝浦出現

鉢陀如來開帳○八月より湯島美林内にて常州麻島護摩堂本寺五丈の

五開帳○下落合茶屋院釈迦如來開帳○四月鳥丸光榮公園東山下向所

道の祀ありうららの濱の祀といふ字弁 一巻○淡草池の妙音寺より駿河蓮永寺

日蓮上人鏡影開帳○目黒不動寺境内より下總葛飾郡正覺寺より不動尊開帳

○半込京町燈王寺より京上寺相實相寺兩所日蓮上人像開帳○八月十

八日より六月十八日迄日延 三十日淡草寺親世音開帳○同廿六日より所苑前大護院

八幡宮中地愛深明^{あひせんめい}開帳○六月十四日儒師藤江^{ふじがわ}邦良^{くによし}卒^{しゆ} 林清苑西久保
光成と云 ○七月

朔日^{おとこし}より^{おとこし}電^{おとこし}宿^{おとこし}中^{おとこし}地^{おとこし}花^{おとこし}名^{おとこし}開帳○七月より本新彌勒寺^{にらくじ}川上^{がわののへ}某師如來開帳

○七月十日秋澤章弼池田利英^{としかへ}紀伊^{きい}必孫^{かなた}熱^{あつ}湯^ゆの^の文^{ぶん}法^{ぽう}長^{ちやう}川^{がわ}の^の綱^{つな}を^を打^うて^て一^{いち}寸^{すん}

七分^{しちぶん}の^の不^ふ動^{どう}の^の像^{ざう}を^を打^うつ^つ大^{だい}同^{どう}二^に年^{ねん}宣^{せん}海^{かい}と^と形^{かたち}を^を谷^や中^{ちゆう}妙^{めう}林^{りん}と^と不^ふ安^{あん}置^ち以^も ○九月

芝^{あし}神^{かみ}明^{めい}宮^{みや}并^{なら}至^{いた}西^{にし}東^{とう}寺^じ前^{まへ}中^{ちゆう}天^{てん}満^{まん}宮^{みや}並^{なら}草^{くさ}重^{おも}像^{ざう}を^を打^うせ^せむ ○九月朔日^{しつじつ}より谷中

大^{だい}系^{けい}寺^じあり大^{だい}延^{えん}天^{てん}開^{かい}帳^{ちゆう} ○十一月朔日^{しつげつじつ}より社^{しゃ}別^{べつ}成^{じやう}院^{いん}本^{ほん}堂^{だう}方^{ほう}丈^{さう}障^{じやう}欄^{らん}を^を外

と^とも^も焼^や亡^{じやう} ○事^{こと}以^も合^が考^{かう}字^じ本^{ほん}成^{じやう} 柏崎永水
著 ○江戸^{えど}め^めの^の二^に冊^{さく}持^{もち}行^{かう} 本
安橋子

○江戸^{えど}名^な勝^{しょう}志^し持^{もち}行^{かう} 友之原著
三卷

延享四年丁卯

二月朔日^{にがつしつじつ}より^{にがつしつじつ}淺^{あさ}草^{くさ}寺^じ内^{うち}梅^{うめ}園^{えん}院^{いん}子^こ育^{よく}仁^に王^{わう}号^{ごう}誓^{せい}帳^{ちゆう} ○同日^{どうじつ}より淺^{あさ}草^{くさ}新^{しん}垣^{かき}東^{とう}形^{かたち}寺^じ

某^ま師^し如^に來^{らい}開^{かい}帳^{ちゆう} ○二月九日^{にがつくにじゅうにち}外^{そと}橋^{はし}田^{でん}火^か事^じ法^{ぽう}度^たの^の舊^{きう}邸^{てい}敷^{しき}焼^や九^く十^{じゅう}字^じと^と云^い ○淺^{あさ}草^{くさ}

八^{はち}初^{しつ}寺^じ町^{ちゆう}本^{ほん}法^{ぽう}寺^じと^と老^{らう}安^{あん}房^{ぼう}茶^{ちや}小^{せう}松^{しょう}末^ま鏡^{きやう}息^{しき}寺^じ日^{にち}蓮^{れん}上^{じやう}之^の像^{ざう}開^{かい}帳^{ちゆう} ○牛^{うし}込^こ七^{しち}形^{かたち}寺^じ

町^{ちゆう}久^く成^{じやう}寺^じと^と淺^{あさ}河^か岩^{いわ}本^{ほん}日^{にち}蓮^{れん}上^{じやう}之^の像^{ざう}開^{かい}帳^{ちゆう} ○二月朔日^{にがつしつじつ}より谷中^{やちゆう}一^{いち}字^じ寺^じ子^こ安^{あん}鬼^き

子^こ母^も林^{りん}開^{かい}帳^{ちゆう} ○小^{せう}谷^こ法^{ぽう}養^{やう}寺^じと^と甲^{かう}初^{しつ}軒^{けん}淨^{じやう}經^{きやう}王^{わう}寺^じ日^{にち}蓮^{れん}上^{じやう}之^の像^{ざう}開^{かい}帳^{ちゆう} ○三月悪^{あく}

黨^{たう}濱^{はま}島^{しま}在^あ清^{せい}善^{ぜん}堂^{だう}刑^{けい}せ^せら^らる^る世^よと^と云^い ○四月朔日^{しがつしつじつ}より大^{だい}霜^{そう}降^{くだ}つ

り^り ○月^{つき}日^{にち}より深^{ふか}川^{がわ}永^{えい}代^{だい}寺^じと^と大^{だい}坂^{さか}所^{しよ}城^{じやう}結^{むす}生^{せい}玉^{たま}明^{めい}社^{しゃ}開^{かい}帳^{ちゆう} ○月^{つき}日^{にち}より谷中^{やちゆう}

妙^{めう}法^{ぽう}寺^じと^と中^{ちゆう}山^{さん}日^{にち}蓮^{れん}上^{じやう}之^の像^{ざう}開^{かい}帳^{ちゆう} ○月^{つき}日^{にち}より廿^{にじゅう}日^{にち}延^{えん}押^{おし}上^{じやう}某^ま某^ま寺^じ尊^{そん}賢^{けん}善^{ぜん}薩^{さく}

開^{かい}帳^{ちゆう} ○二^に田^{でん}寺^じ町^{ちゆう}林^{りん}泉^{せん}寺^じと^と七^{しち}真^ま初^{しつ}聖^{せい}賢^{けん}郡^{ぐん}牛^{うし}岳^{たけ}似^に村^{むら}住^{ぢゆう}生^{せい}寺^じ圓^{えん}光^{くわう}大^{だい}師^し開^{かい}帳^{ちゆう} ○

牛^{うし}込^こ淨^{じやう}樂^{らく}坂^{さか}元^{げん}寺^じ親^{しん}世^{せい}音^{おん}不^ふ動^{どう}寺^じ開^{かい}帳^{ちゆう} ○小^{せう}石^{せき}川^{がわ}若^わ雄^{ゆう}寺^じと^と引^ひ籠^{かご}院^{いん}開^{かい}帳^{ちゆう} ○

高^{かう}橋^{はし}正^{せい}覺^{かく}寺^じ跡^{せき}地^ぢ如^に來^{らい}開^{かい}帳^{ちゆう} ○後^ご江^{かう}之^の名^な成^{じやう}院^{いん} 社
社 社^{しゃ}田^{でん}明^{めい}社^{しゃ}北^{きた}隣^{りん}移^{うつ}る^る 後
中元

後^ご江^{かう}不^ふ 社 ○六月十七日^{りくがつしちにち}儒^{にう}師^し菅^{くわん}野^の兼^{けん}山^{さん}卒^{しゆ} 卒
谷中
寺持と云

○六月廿七日^{りくがつにじちちにち}佛^{ぶつ}人^{にん}交^{かう}曲^{きよく}室^{しつ}逸^{いつ}志^し卒^{しゆ} 七十三
報恩寺中

八十金^{はちじゆん}大^{だい}名^な家^け有^あ林^{りん}平^{へい}助^{すけ}排^{はい}勝^{しょう}兼^{けん}二^に再^{また}せ^せり

又^{また}塗^ぬ物^{もの}子^こ 之の
御
本
名
の
桶
丁
と
信
せ
り

○八月廿日、本宮、春葎平八十八天林孫右衛門、谷中、天現寺小葎、○春、河、秀、蝶、花、宿、社、(祇園會)細園の額を掲ぐ、○淺草、大、護、院、八、幡、宮、修、復、助、成、の、為、三、年、の、旨、晴、久、八、日、の、寄、進、結、身、形、あり、○七、月、初、日、より、回、向、院、を、羽、州、湯、殿、山、法、連、寺、大、日、如、來、開、帳、○月、日、より、回、向、院、を、上、德、園、小、田、森、大、森、寺、保、院、如、來、開、帳、○十、月、上、旬、より、松、小、風、邪、流、行、○十、月、廿、日、佛、人、菊、岡、治、涼、平六十余才、若、房、形、号、米、山、崔、下、菴、林、菴、在、橋、本、村、回、向、院、町、住、住、持、形、子、世、世、傳、統、傳、由、ゆ、ゆ、の、俗、諺、志、中、外、著、述、多、く、の、事、も、有、益、の、由、之、男、政、速、恒、足、軒、と、号、以、

此年間記事

真先稻荷社、延享三四年の以、より、諸人、多、く、整、束、せ、り、○谷、中、堂、葎、稻、荷、社、葎、稻、荷、○鳳、岡、寺南、山、派、修、驗、願、成、寺、陽、務、久、林、中、收、より、聖、堂、復、一、後、り、○延、享、二、年、の、美、江、右、の、流、形、物、を、集、め、る、方、句、集、り、り、時、津、風、と、歌、を、吟、み、門、人、及、故、歌、果、然、と、い、ふ、人、の、編、み、再、考、合、手、内、を、撰、り、目、次、の、を、と、た、み、あ、る、べ、し、

△浮、繪、遠、來、の、山、水、也、う、れ、な、い、う、れ、な、い、り、ん △雜、司、谷、倉、式、所、物、門、百、夜、京、門、風、車、志、清、形、講、叙、中、聖、
 △桃、園、寫、が、長、吹、矣、下、子、屋、在、左、邊、香、具、女、南、力、紙、在、右、邊、去、清、辻、室、引、
 △象、股、引、券、角、力、大、名、食、純、聲、道、人、竹、村、菴、保、多、良、稻、荷、(右、面、葎、
 △雷、筋、之、分、相、撲、芝、鏡、切、形、赤、坂、奴、正、燈、馬、紅、糸、薩、摩、芋、干、
 △珍、重、せ、回、向、院、赤、淡、雪、池、の、鴨、楯、屋、小、間、 △深、川、筑、葛、麥、伊、左、衛、門、 △杜、丹、屋、出、
 △花、廿、日、半、辺、白、と、す、べ、海、老、菴、結、鈴、賣、花、石、中、極、本、市、 △淺、草、園、十、良、艾、
 △湯、島、油、揚、伊、四、子、麩、霞、面、取、中、山、下、敵、格、 △下、統、子、豆、子、庄、や、兵、衛、菴、菴、童、
 △波、の、敷、を、中、村、葎、貸、物、貸、衣、裳、 △吉、原、將、菴、新、迎、坊、主、 △麒麟、の、助、輕、業、
 △深、川、帽、子、兼、平、様、忍、儉、純、未、詳、 △鳥、越、口、醬、菴、齋、 △卷、紙、賣、風、俗、也、 △芝、湯、屋、
 △酒、芝、菜、若、芝、み、や、く、や、觀、の、 △廣、澤、石、摺、豊、後、節、 △大、名、極、補、口、神、田、社、
 △葎、の、着、羽、織、衣、紐、 △江、戸、川、推、本、矢、場、 △狂、言、他、若、律、打、歌、去、清、 △熊、野、十、二、所、

△涼垓大軍

新東二二二とありし山狩野實信涼垓の
水戸の画師とて日の出を画く不名あり

△八人薨

今白河のりて
北の志の板あり

△以子丸

丸は南条高房の戦に角を差ると形を交へ申す

△加賀骨扇

△地蔵寺

三ヶ坂法安寺
常楽院

△懐紙折

通新石町
金月長宗

△狂言坊

未詳

△木葉茶餅

此外あり

○婦女のわがごとくといふ物始々後一旦廢れり寛政より再度あり○郡内

微塵鶴衣敷を有る○江戸節古依古紀本筋木の標芝居ありしは

次男小廢れ大政の長女とあり

寛延元年戊辰 十月間 七月十八日改元

三月二日夜谷中瑞林寺より出火本堂塔頭以下焼亡感應寺

本堂塔頭門前町燈籠七○三月十八日より魚籃觀世音圖帳○四月より

三田屋町泉福寺茶師圖帳○四月より魚籃觀世音圖帳○四月より

三月廿五日宮醫曲直津若瑞年 六十三才養安院と号す
麻布天竺寺小菘也 ○三月廿日南郭の長子

温心卒 三十分 ○四月朔日より日蓮祐天寺鉢陀如來靈室圖帳○四月より

永代八幡宮圖帳○二本榎義敬寺祖師圖帳○淺草日輪寺本新回向院

の所より於て奥明令降西光寺日蓮地蔵菩薩圖帳○六月朝鮮人未曉 正使
洪啓禧

副使南恭孝後奉曹命某旅前東本願寺より 号青
海堂

真狂金齋林といふ人淺草寺瀧王堂の額を書す ○八月十日書家馬場夷水卒 号青
海堂

市谷長恩 ○閏十月廿一日他人堀内山鶴卒 七十
四才 ○十二月琉球人東碑 正使
具志川
玄孫

○奥澤村浄心 九才 燒失

同二年己巳 正月廿三日長後流孝道祖本権耕雲卒 六十二才林守左馬
麻布浄林寺小菘 ○三月廿一日儒師桂

山義樹卒 号彩岩林寺并去場
深草新極威光院小菘 ○今年秋佛啓齋院肇りの月日詳ありは開

帳記よりして是より

身あり○房州加茂村日蓮寺祖師浅草あさ○四月八日より

七月迄芝泉岳の秋迄加茂閑帳○日暮里本行の小道灌丘碑を立流波山人

石正務文を撰む○四月廿三日朝曇八時の大雨大風向大霰降るあられ 本不辺九二十

也之家を流石小川町番町八十位筋遠外物進能草堂あき ○六月より回向院より甲州

信玄寺不動尊閑帳○七月より浅草寺新院より越後西條寺法苑也

弘智法印像閑帳○七月七日儒所中尾廣徳卒あき 林正西屋

儒所井戸甘谷卒あき 拾部右馬方慈 天徳寺尊氏 ○七月十七日

此年回記事

延享四年三月の雨より不忍池の水築地も東へ茶店揚弓場溝秋場も建

はねぬ藝習り又寛延二年舟大天の島より西茅町の表一板橋を折折は

て架けおふりりてはつたる依て八ッ橋といひ架るは沈の輕多死面也依て

輿り多らるる○此時代より閑帳場は神佛よりハ帳と云ふ事始なり

○江戸書抄六十帖写本成あき 元禄の江戸風俗也 ○享保廿年の江戸船子拾遺寛

延四年の再訂惣麻子ハ此時世の商物を載れども二書世より友らふ

抄也也○傀儡師江戸の方言ふ山猫といひ一月十七八夜も同く不せ也

まづ此時代より絶り○宗十郎中を中り出ハ○寛延四年江戸圖

小天文屋祓田佐久間町二丁目三丁目の小あり池の端築出り新地と記り

白山河殿の茶園と名風園古聖堂不ふあり

寶曆元年辛未 六月間 十月三日改元

二月十八日より護國寺親世音閑帳○三月十日佛入石賜子卒あき 深川六右衛門

○三月十八日より浅草寺親世音閑帳あき 享保四年より二十三年月あてち内神佛のころハ

務の九の紋と付て始て神納とこれより十二てちんのふはあて

木下川浄光寺本師如來開帳○月廿二日より平井村燈籠守にて成田不動
 寺開帳○四月朔日より浅草報恩寺親雲上人運物を移せしむ○月日より
 浅草寺町正福院柳福花開帳○月日より回向院にて甲丹若光寺延隆如
 來院親佛開帳○系於本満寺祖師谷中妙法寺にて開帳○其全枝
 因縁寺七面大明神開帳○大師河原平回向大師開帳○初乳山聖天宮二并
 帳○浅草寺町 [] 之依波塚系根本寺祖師開帳○新嘉八幡宮
 開帳○月朔日より湯宮社地にて夜叉子控規開帳○月日より西院
 前八幡宮にて豆加茂郡最勝院親如來開帳○浅草寺町正福
 院にて豫念永谷貞昌院天満宮開帳○谷中妙林寺不動寺開帳
 ○不忠弁才天とて常陸水戸玉里妙系寺不動寺開帳○六月三日
 詩人益田雀樓卒 名伯隣本町下目美多業店のある一寺と云る ○八月廿日

荷田在満東於の卒 早才熱東に進法草令統ち不華以男所凡 ○九月晦日俳人
 小沢ト尺卒 浅草掛巻の華次 ○十月十日儒師市野光業卒 家子暁本が歌の中
 ○若菜の女蘇者といふ所の今年より始る 扇屋の奇仙といふ所の始り支より進るに
 ○再訂江戸惣席子名所大全持行 奥村玉華編 七冊 ○南向茶話字本成 酒井氏 忠昌著
 江戸地理沿革の同巻あり明治二年の
 逸考を合し一部と云

宝曆二年壬申

正月四日物産家丹羽正伯卒 丸山本坊 古に華次 ○二月二日より三圍稲花町神開帳
 ○二月廿二日より中の如き輪寺聖徳太子宮帳○二月廿五日天満宮八百又
 十年沖忌○月日より湯島天満宮、麹町平河天満宮、小石川半天社、東鴨
 小系町天満宮開帳、龜戸天満宮へ今年社建立成て二月十九日より廿五日まで
 開帳○二月廿八日より目黒不動寺開帳○三月朔日より湯島社地にて伊豆

八丈島為朝明神開帳 ○四月朔日より飛戸新嶽山権現素年天神南嶽院
 吾妻森吾妻権現飛戸新門院正觀音木母寺梅石の宮本寺文殊并飛
 戸竜眼寺中嶽権現并明宮右佐れも自坊に於て開帳あり ○四月朔日より
 日向院より系知恩寺山光大師利劍名号開帳 ○同日より半込京町妙山寺
 あり房及小嶽誕生寺祖師開帳 ○丸山津心寺祖師谷中本寺祖師
 開帳 ○四月々麻布光雲寺老大師河系清宝院地飛井開帳 ○四月より
 目黒高福院誕生八幡宮開帳 ○五月津川三子堂重修 ○六月廿日
 池の端新地の家屋六十九軒より家敷除多引拂せり多々の女とくを
根成りたゆを
 ○七月朔日より湯島社地下野那須野泉濱寺誕生石化度聖觀音開帳
 ○同日より日向院より武州羽生以不動が恩村惣敷寺不動寺八丈童子開帳
 ○七月十日儒師中西淡洲卒早二才名維章孫号七年
上と北中瑞龍院并華次 ○同月十日倭文子卒下

弓丁伊勢屋平右衛門の娘より七葉御所の門下
 入て園学和名小名あり深川有権寺小葉以 ○七月墨院川于浮小大島より有無四尺
 餘りの長サ之尺餘より方せ知り大江戸
妻秋不出 ○八月二日夜永代橋の北の方小
 浪声あり何とも知れず ○七月護持院大破又付江戸町と動化と暮り
 ○八月十二日山縣周南卒年六才孫少助
子左保福寺の墓也 ○吉井正常光寺白令引く後
 明和二年相秀寺と改称移上人窟あり ○十二月琉球人來朝正使今内仁王子
 宝曆三年癸酉
 正月四日六日八日大雪九日十七日十八日為廿二日雪廿三日大雪廿四日
 二月三日六日九日十日十三日十四日為十六日地震十七日為十九日大雪廿日終身
 廿三日廿八日廿九日廿日為三月三日大風為曉七時より雷雨大雪降六時晴は曇り
 候如北大江戸
美秋 ○二月朔日より約辺目赤不動寺開帳 ○同十六日より護國寺に
 甲州万力村帰命院信去中寺深院如東開帳 ○三月十六日甲州身延山祖師

戸帳より付江戸到着の日近ひの人殺品川より日か相違つく何町構中と出
籠帳ありと云る 困帳様申付 四月朔日より深川降を云ふと云帳

○三月十三日より九月晦日迄薩摩外祀座をせり人散芝居真形本小倉

小四郎之○四月朔日より湯島社地にて武州一の宮藤川明神困帳○同日

日向院にて武州熊谷寺院如來蓮生坊新困帳○四月朔日迄新形若草

大師新困帳○四月十五日より深川永代にて奥初金山弁才天 大金 困帳 教甲

八幡町整甲あり 細上人 右兵衛海へ六月二日より千石本母より困帳あり○四月より

九月より麻彦流杉人より死○五月十二日儒師相家亮卒 号親圃又白圭

○六月号藤枝芝居曾我祭今年より始る○六月廿日儒師相月半法眼不角

卒 九十二才立羽千翁と云集北の成徳寺に葬せ ○七月朔日浅草法王寺にて相洲苑の

相洲苑困帳○同日より護國寺にて相洲苑中村に送山祐信院法院如來

不動尊困帳○同日より 八日 葛場町茶師境月日大坂又五の南石室泉

尾寺聖徳太子 末弟 正親王困帳 長岸島渡所櫻打巻巻物 ○七月朔日より回

向院にて徳久大寺法親寺寺馬次親世書困帳○月十六日より浅草極楽にて

奥列衣川地蔵院子親世書教書立住生像 六十二才 困帳○八月廿一日書家

平林惇信卒 六十八才号静安消日居終末入部 ○十月石中嶺寺より小倉武極楽

正月廿日秋生叔達卒 名親号北溪祖来の家弟 ○国二月より元八幡宮本地佛

号氷室明神困帳○月日向院にて奥列會津高巖寺園光大師困帳○

国二月より山花寺八幡宮内にて越後し宝寺大日如來困帳○国二月より

永代寺にて薬師山本地親世書困帳○護国寺にて相洲苑付宝を詳せり

武江年表卷之五

○三月十六日儒師在子謙卒 名益子婦 妙福子小孫 ○四月朔日より南都西大寺秋

如來開帳 ○四月廿五日儒師谷口千秋卒 林多膳子也 瑞春子小孫 ○五月三日儒師去在庵直

卒 号琴基浅草 海禅子小孫也 ○六月廿五日能人櫻井吏登卒 後の雲中者 ○幡隨志院のそ

和尚谷中三砂小孫賢山法住寺開創 其北の溝は度より 沖寄附あり 江戸中の男女地形の土

砂を運び目あぶびて成就す世俗新幡隨志院といふ ○七月廿二日宗世修師

羽川珍重卒 七十余才此のそふ東田ち小孫其共伴曲亭の燕石雜誌に 記あり ○八月十五夜酉の

刻月蝕 皆既 ○八月十七日儒師石島正倚卒 荒波山人と号し 約は吉昌子孫 ○十月改曆領の宝曆

あよみといふ ○十月十六日儒師西日子深卒 号静舟三ハ 麻布若芝子 ○十一月廿二日能師

自在庵祇徳卒 押上大雲寺小孫也 辭世空きてりと東くをゆるあり

宝曆五年乙亥

二月朔日より谷中妙法寺なる豆洲玉法花寺祖師開帳 ○二月より護國寺

あて常例 正徳不勅者開帳 ○三月朔日より晦日迄牛山あて社修慶

成就と舟岡之麻 正徳不勅 修慶あり ○三月十三日下谷法普あて比上本門ち旅立祖師開

帳 ○同月十五日より十九日迄日向院を明曆丁酉正月焼死溺死の輩百年

忌免越法あり ○三月十六日より深川永代寺を信州戸張の神九頭龍

権現 顯者 開帳 この内社をせ給ふ神子受女の空えあり千名をおまへと ○同日より浅草

修念寺大字利劍名号 法名和尙の茶 朝日如東開帳 ○茅場町茶師内より

ねぬ大山の藤子易親世音開帳 ○四月の以下下徳古の恩業橋の造りより

弘法大師の利益あて茶水涌出るといふ俗説を信し貴賤羣集 この水と各

々或身内 権と九月迄小彼地は旅舎千軒修せ列さう又石は文字現を石

より芽を出し 流言して江戸市中の各路を伝ふあり ○四月朔日より

止む ○四月朔日より日向院より小金東漸寺園に大師開帳 ○四月より

青山善光寺延陀如來開帳○江之上宮之牙又開帳○八月十五日夜雨成時月蝕六分○冬米價貴踊を○十月儒師
飛鳥圭洲卒 名淵清菴 本寺院本葬

宝曆六年丙子 十一月

正月十日新校本町より出火本座芝居敷焼○去年冬より米價次第
飛揚を○二月朔日より牛込久成より上総國植生郡妙宣より親延生地
経渡祖師開帳○圓向院あり彼岸中加賀白山神形釈迦佛舎利開帳唐
筆泣虎画と掲る○三月中烈風吹続き度々火災あり○四月朔日より圓向
院にて安房國那古寺 坂本二十 三本番 親世音開帳○四月六日より目黒成院新業
師開帳○四月より東の院より常陸國茨城郡福田山西念寺宝物を掲せしむ
○四月より下谷本法寺ありて下谷平賀本寺より白毫光祖師開帳○市谷

八幡宮境内より徳会坊より圓我院弘法大師八幡大菩薩開帳○六月東
叡山仁王門新再建成○六月画工尾川龜出卒 み十八才白山中丁の光よふ 善八 男七松茂とりの ○六月
廿音俳人雨夜菴飛成卒 牛島 弘福寺本葬 ○七月下谷本泉寺より佐波谷妙照寺
祖師開帳○十月谷中修性院の庭今年より開き每善遊観の所とある
發起高田氏庭作是病斗碑を立てたの成義鶴と
不二法ハハのありしひくく庭 ○閏十月十日儒師小出三山卒 名亮之 林義平
焼亡山下町加賀町惣十郎町尾張町出雲町金六町辺以富本枕町三
十石堀仙臺廣興平度河藩邸同日於此に於此に武家方より出火して
為本邸此地内十日五より南小田系町海子延焼亡○同日昼前青山控田系
より出火して麻布辺二本榎三田の邊まで焼亡○本町の町家此に延焼は
く崩しとの唱へる菜蔬をとりし小作りよりし町屋を改り後より料理

葉屋を出し女を抱て母を奪ふ世人大根物と云ひあふ世を

宝曆七年丁丑

三月朔日より芝林明宮境内より近江多賀大社御帳○三月より上野
 清水親世音岡帳更上雲仙麻尚徳上野清水事之景法軍破の頼を揚
 ○三月十日より辛日川に善光寺本号跡地如來岡帳本堂修葺今年成就
 せり○四月十五日より不忍寺又信帳○三月より常宿現社比之武州より
 幡金剛寺火防不動寺長一丈岳帳○四月朔日より日向院より安房法徳寺能
 満虚空蔵芥岡帳○四月朔日より日向院より越後より田善導寺若守大
 師因光大師岡帳○四月より淡草九品寺番履地蔵寺岡帳○永代より
 京東山金蓮寺深後地蔵寺岡帳○四月より五月迄深由冥本清水真洲
 肌體之江戸の米價も次第小登揚せり○七月岡東中玉清水○八月二日

谷中法住寺岡泰了碩和尚寂○八月十日下谷坂本小野照修明宗宗礼
 出練物本出流之後中徳之○八月十四日官儒土肥允伸卒名元成号震洲
林源に弟市谷
 ○九月五日より深川八幡宮境内より大花氏勅進徳貞行○田村元
 旌始より湯島小おいて物産舎を信次聖年又林田
小舎舎あり○真光稲荷社流形出で田樂
 茶屋教軒出来て整昌す○十月廿日金剛之柳川直政卒六十一
六才○十一月廿日
 儒師桃東園卒名道隆牛島
弘福寺小華也○十二月廿六日淡草若松町より出火して火
 火不及ふ所蔵の恙あり

同 八年戊寅

二月八日より木下川茶師如來岡帳○二月より獲國寺より上野出流山小
 子親世音岡帳○二月十五日日向院より常陸麻布本地主親世音岡帳
 ○岡寺より陸海若松新善光寺跡院如來岡帳○三月朔日より海日迄

武江神皇正統記卷之五

十一

淡草報恩寺ありてその内公宅所坊大信寺宝物を拜せしむ○淡草若菜寺ありて
 佐渡國所祀実相寺朝日祖師并帳○牛込東町高光寺ありて駿州沼津
 妙海寺祖師并帳○麻布兼教寺ありて鎌倉相模谷妙法寺祖師并帳
 ○湯島社地より比叡山坂本末達寺并院如來開帳○廣尾天現寺
 毘沙門天開帳○市谷八幡宮内より遠州濱松大福寺茶師如來開帳
 ○赤坂鈴降稲荷開帳○芝居下芝福寺茶師鞠町九丁目寅茶師開帳○
 三月十日夜四時辰美濃島より大川端追焼寺時焼火○六月日連舟師里
 村昌迪率五十○八月日鯉洲海晏寺親世より并帳○九月廿日廿九日追雷鳴雷降○
 古曆使覽再刊東所よりある茶師を八年の春永
冬迄之小同月より去りあり○十一月深川靈雲院并開創本山放光
本堂山
 門山珠稲荷社外悉く成就也備外宝曆十年二月六日の災ふらふ
此社に林系度下並ありありし

宝曆九年己卯

七月国

二月十日より回向院より出羽湯殿山本道寺大日如來開帳○二月徳小寺より
 災あり○三月十三日より淡草若菜寺より系妙満寺祖師并帳二十二夜終村曼茶
羅并道成寺の焼あり
 小寺より○二月十七日御人若本乾付率湯里新干菜鬼と号 辨世雪解や八十年の御外
之句たの東上りの文をせり作し味ぬを以
るハ乾付ありは世不傳く不仍の表も性く志う記せりおのれが声曲於纂ふも亦徳て有法一つこの
以花樹の傍正井為氏の種より味ぬ人といふハ彼家の祖ありて井為正頭と号し御塔を乾付不學ん
て井為人と号し以乾付の世不傳と号す○三月十首より本都那寺座敷より越後高田本
 都那寺宝物川越の名号ありと辨せしむ○三月川崎明長寺石觀音開帳○芝
 居圓珠寺ありて千住日蓮より鬼子母神清正
不持并帳○四月八日より本所跡勸寺
 茶師如來開帳○同日より下谷法養寺ありて鎌倉比企谷妙華寺祖師開帳○四
 月十首より廿八日追龜戸妙義山権現開帳○淡草圖磨堂又多田茶師内より
 奥州柳津虚空苑并寶頭盧者者開帳○米穀豊饒あり○六月廿日
 服部南郭率七十七名名元喬林小右衛門昌川東海寺住持お神院より
養以男惟良惟恭ハ又小光七率ハ○七月初日より麻布

武江神皇正統記卷之五

十一

善福寺親實上人了海上人像因帳 ○同日浅草玉泉寺にて相州皇降天拜祖師

因帳 是洋妙純也 ○武州大板大聖寺不動尊自坊之因帳者 ○八月令後札

新祝正修止あり ○八月十六日高田穴八幡宮祭礼出し祈り物を出し其後明和に

年返續く ○九月十六日約迎神明宮祭礼産子町より出し祈り物を出し

平賀鳩溪湯湯子物着の命を佳し 又會あり ○九月晦日法惠和尚助迎園宗寺

不寂以 サニテ初雅より法法をあらせ今弘法といひ下徳圓明生於尾修若樂の廢るを身一

人得阿弥陀仏と号しをの願徳之といひ宝曆六年壬子二月六日より四月六日迄

川原川よりおいて講祝あり 諸島の大家都鄙の良賤日毎又群集し其佳

と仰ぐ 後師へ東海を承の孫の人之明和五年十二月十日化寂あり八十比路といふ

寶曆十年庚辰

二月二日尾花天寺二遊祐海上人寂 名愚 号祐蓮社信所 ○二月廿日夜八時未及

今井谷より共火く之麻布辺日産雜色十番獨坂三因寺町伊四子聖坂より

田町赤川海子不玉る ○同月六日成刻村田旅籠町寺子同明石屋と号し是袋屋

より出火乾大風佐之間所辺より及り浅草辺より馬喰町本町日本橋江戸

橋辺靈巖島新川辺源川一飛洲橋本場の辺追焼亡世三不事焼又永代橋新大

橋も焼る七日已刻焼火 ○同日芝村町赤太好店の向湯屋より出火濱松町庁門

前金沢芝田町辺本芝海濱追焼亡 ○三月十六日より四月六日十七六阿弥陀

不跡因帳乃基并千五十年忌 ○市谷八幡宮甲冑林像因帳 ○壬子稻荷

社地より越後高田妻日山 鎌信 毘沙門天因帳 ○三月廿日より回向院より美濃

國稻園誕生寺園光大師因帳 ○魏町公法寺より総列佐倉松林寺千々親

世書因帳 ○四月より八月返早天 ○四月廿日英一峰卒 深川法祥寺中 ○五月

二日書家猿溪卒 本名元町 ○九月十九日鳴島風御卒 名信遍字海極松林苑

七十三卒本名信子不尋

○十月十日儒師福業迂舟卒 七十七歳名正家於十左史約也
竟光子孫華子男を黙多といふ

宝曆十一年辛巳

正月廿五日圓光大師五百五十年忌 ○二月朔日より茅協町業師内にて信丹寺

井郡金胎寺不動尊山釈迦如來開帳 ○三月朔日より淺草善五寺にて甲

丹遠光寺日蓮上人像開帳 ○三月十二日より本下川業師如來本堂修復

出来舟開帳 ○四月十首より本処法恩寺にて系本寺にて釈迦佛像開帳

○四月朔日より回向院一言親疾言開帳 ○同日より洲寄舟天開帳

○四月八日より十七日迄新尊越念佛院中約娘忌廿又井邊供養 ○四月青

山若老寺阿彌陀如來開帳 ○三田八幡宮開帳 綱が合れとて
美室小出せり ○雲巖島開帳

橋本指花社業師如來開帳 ○四月廿日より淺草玉泉寺にて下徳園塩谷

法宣寺祖師開帳 ○淺草唯念寺より下野園高田阿彌陀如來 若老子
一併分身 開帳

○青山久保寺 高徳寺十二面觀世音菩薩開帳 ○千駄谷八幡宮にて武井入若郡山

口村末蓮寺 秀衡守
本宮 車還三尊弥勒如來開帳 ○四月十五日より相次江の島

岩孫舟才天開帳江之より系猪多 さんげん ○五月能辨師慶紀念卒 卒次谷中
竟光子孫

辞世 以年て世をわめり
孫院不白て中りけり ○六月金胎寺大津尋常卒 比十二才
孫公也 ○八月十七日堀

町中の芝居 標
座 大火燬町葺屋町敷焼 中村勘三郎が芝居の
善徳中より一石焼 ○九月二日官儒

中村蘭林卒 名明遠林深翁
谷中本林寺 ○九月廿二日金胎寺新浦京嘉卒 六十
一才 ○十一月廿

七日儒師井上蘭堂卒 名通照林嘉昭
落合恭雲寺 ○十一月二日能人松本淡淡浪花卒 八十
八才

○十一月廿八日新上人五百年忌 ○同長村長泉律院開創堂宇落成 三標
出

大佛正成答大玄和尚淨云佛の二寺我創せんとの志願す之入寂の後遺言す不如百計千重にて川越

蓮聲寺王教上人力を勤て終成就すとの時位感蒙寂徳門和為及徳の言えあり臨門師

業杖記一巻 ○十二月廿日金胎寺稻川直光卒 祿文四年
弟中教寺中本華

同 十二年壬午 四月閏

法華經疏卷之三

十一

二月日本橋南町焼亡○四月より東太新寺より常陸國水戸縣船山釈
 入寺宝物七洋せしむ○八月より深川津宮より甲助の宝物七法師の
 帳○八月より日向院より上總國水戸村給合の齒吹彌陀如來開帳○八月
 浅草西福寺の燃書無支天宝物開帳○麻布一本松大法寺大支天竹教大師の像二面開帳
 ○高洲如光寺より多摩郡日永村一石山十一面觀世音開帳○宮橋交
 申堂開帳○足立郡湯根安福寺日蓮上人牛込宗相より開帳○昨年
 山王新祭礼延引今年六月祝あり○七月より永代寺より成回不動尊の并
 帳○伊豆子長慈寺より越中若瀨谷本法寺海中出現法花經紺地金泥文
 曼荼羅の相せしむ○谷中大杉寺より下総水戸野法蓮寺日蓮上人像開帳
 ○牛込國福寺より足利加殿妙國寺日蓮上人開帳○浅草新所宗安寺七
 重觀世音開帳○浅草極寺員佛阿弥陀如來開帳○十月三日書家新田

耕山卒名推通林甲四病○十月龜戸龍眼寺小殖齋の志子と安置以莊原郡
 清原清谷寺小生一像之

寶曆十三年癸未

二月十五日より龜戸龍眼寺殖齋聖徳太子開帳○二月より深川玄信寺
 阿弥陀如來開帳○二月廿六日より三月廿六日迄龜戸天満宮社新建立成就
 二付開帳○三月九日より押上太雲寺觀世音開帳○三月廿二日より日向院
 老上洲大同山聖徳太子開帳○四月八日より深川津宮より堀の内
 妙法寺祖師開帳○四月朔日より芝如來寺より河内壺井八幡宮開帳
 ○四月七日瀧山町より出火救急屋橋所門前追焼亡○六月十日山谷
 田明神祭禮産子町より出火救急屋橋所門前追焼亡○六月廿一日
 画家狩野祐清英信卒号如満高年七十五 深川津宮より小葦○長崎より傳一と号し生年不詳

江三

より之を治小い日能操び一と之を扱て賣与り○六月無優萩野八重
 桐船中河ふ起碎身の餘り蜆をうんとて川下り立海之入弱死を
 平賀鳩溪根より買とりて紙をつくるとして成のぶ○八月廣東人參
 高賣を止めぬ○九月朔日日蝕九分曆面小脱せりといふ○九月廿四日
 祭礼所年より延ひ高月祝り○十月廿四日所喜今日岡田治助
 朝鮮人參座を命ぜらる○十二月十九日書家篠田休平名貞貞号金溪
陸人小日向金剛
 著 ○古今相撲大全梓行 木村政務
著 ○志道新傳梓行 風来山人
撰編
 此年間記事
 日暮里の森稲荷二橋社
の外 新小勅清尺 ○坊上寺塔頭公光院赤羽根
 川端移る ○目黒幡籠寺境内窟出末る ○宝曆中浅間山の上人本
 歌小よりて江戸並近を令々弘法大師八十八箇所系始る 大進院
ふりり ○松森

稲荷を宝曆九年延隔年産子の町より花中一徳物作書と改りるが其後
 中絶是 ○小野照清の神系隔年作書也一徳物を中りる宝曆七年より
 中絶是 ○宝曆末より又日新田社より系消多し社地又之を賣却猶人末て也
 と是 ○根岸田光寺倉中花蔭の心盛の以貴後遊親多し ○婦女菅笠
 齋り書紙紙にて張る日傘行る ○夏合羽夏火事羽織漸く始る ○土佐
 節浮瑠璃庵れ江戸並河本並大坂の義を又并京の園八並心傳其末の
 浮り行る ○卜者平沢左内ね学者神登登軍書講釋師深井志道新
 小あり 滋野瑠璃庵新成田壽仙小あり 壽仙の
無雙之 ○北須大極形紙六七十艘ありし
 一壺塚終まいり ○且那のねつと膏業と唱て市中業を賣る者あり ○
 浮世繪師終末其信石川豊信 秀範と号云掛圖飯盛の女ありて
る繪師の落居ぬる七五橋といふ 有居信倍山幸哉信
 七市 鬼玉其外あり ○好事の輩古物を集る事行る

○は時代世上の風俗をのびる故名をそれと為す持たしけるを撰て評判記を
 作り千石篇と題して内蜀山人の水滸論を別て賞せり○芝紀逸武玉川と
 りの俳句十六篇をいり一人の笑柄とて川柳が折柄も是より出りしと云
 ○山本静親坊といふ若下子徳義といふ多紙をあらうて世に刊載する
 戯文あれども教戒の言を用ひ人の著書十三部程あり
若連目録ありて徳義の
 田向院に在りて下子徳義の
 下子徳義は徳義集に徳義といふ字ありて
 下子徳義といふ字ありて徳義といふ字ありて
 ○三三回 徳政といふ著書あり
徳政といふ著書ありて徳政といふ字ありて
 ○家友小曳尾菴云々既河巻をよめて左の方小當河川端に石
 工をそれが家の前より男女の石像あり是は宝曆の以飛戸小徳座なりて其家の
 文姫の石像といふ後年春落して流るる子孫もあきありしや取あき
 次は徳義の著書小徳れを文化の中心を築いて賽沙舟をいりて文姫石
 と号して何る流り立現るる人なりと云く○宝曆三年の終より大文字巻の

大うやわわといふ童謡あり
吉原町町おき屋市を傳うといふ童謡ありて大うやわわといふ童謡あり
 蜀山人は名世説は
 ○寄合茶屋徳義著書京原深川西宮宮あり○標世茶屋盛不衰
京原深川西宮宮ありて標世茶屋盛不衰
 たり宝曆の如豊竹肥前橋ありてと未決が是居ふありて尚豊島一と云く
 福内鬼外福内 孫平賀 浮瑠璃ありて作り物あり何れも佳作也
昭和七年小徳座なる文に
 後の上より標よりけり
 殊に藝
 ○宝曆中西村重長が繪本江戸みわけ國中は國涼の景より水菜
 菰蔭畫の巻板あり見世毎に形物を並べて採石と記せり吉原より新編
 笠茶屋小編の笠物ありて作り物あり女子帽子をむす流世女形茶屋の
 かんとう○花屋ありて作り○婦女の衣敷丁子菜の色を好む花簪を
 やる茶塗の櫛旭の櫛と作り象牙の弁もなまきり○硝子の外國の物ありて
 蘭人持渡り中古古物ありて製するをりを得京大坂小徳一を近以京原に
 して職人多く出でて其の器を製して活業と爲る者ありしや小曳尾菴云く

ビイドロを蒙^え落^おす^た何^{なん}れ^れホルトカル^の辞^{ことば}ありと○横山町子同族^{どうぞく}盛^{さか}る^る傍^{かた}とりの^{とりの}子^こま^まして田舎^{いんが}小^こ用^{もち}る^る箱^{はこ}こ^この^の齒^は是^{こゝ}追^お井^いよ^よて^てわ^わり^りて鉄^{てつ}よ^よ作^{つく}り
何^{なん}れ^れ○圖書^{とくしょ}集^{しゅう}成^{せい}一^{いっ}万^{まん}卷^{くわん}康^{かう}熙^し帝^{てい}の自^じ撰^{せん}之^の宝^{たから}曆^{れき}十^{じゅう}四^し年^{ねん}船^{せん}来^{きた}して
官^{くわん}庫^こ一^{いっ}お^おこ^こめ^めら^らる^る一^{いっ}安^{あん}齊^{せい}傍^{かた}學^{がく}ふ^ふく^く何^{なん}れ^れ改^か元^{げん}以^い前^{ぜん}あり^り

明和元年甲申 六月十三日改元 十二月間

二月十六日朝鮮人^{しんじん}来^{きた} 正使鄭尚厚副使李仁塔 後事浩傑仁李李致李致宿 二月六日上野^{じやうの}より^{より}曲^{まが}馬^ま何^{なん}れ^れ滑^{くわ}
人^{ひと}の^の物^{もの}す○二月より^{より}目^め白^{しろ}不^ふ動^{どう}の^の閑^{かん}帳^{ちやう}○深^{ふか}川^{がは}永^{えい}代^{だい}寺^{てら}より^{より}糸^{いと}粟^{あわ}田^{でん}に^に青^{あお}蓮^{れん}院^{いん}宮^{みや}に^に持^もた^た不^ふ和^わの^の
則^{すなは}經^{かみ}の^の祖^そ師^し閑^{かん}帳^{ちやう}○深^{ふか}川^{がは}永^{えい}代^{だい}寺^{てら}より^{より}糸^{いと}粟^{あわ}田^{でん}に^に青^{あお}蓮^{れん}院^{いん}宮^{みや}に^に持^もた^た不^ふ和^わの^の
三^{さん}条^{じょう}小^{せう}船^{せん}作^{たく}極^{ごく}縮^{しゆく}の^の形^{かたち}新^{しん}親^{しん}習^{じゆ}上^{じやう}人^{にん}強^{かう}發^{はつ}像^{ざう}閑^{かん}帳^{ちやう}○茅^{ちやう}場^{ばう}町^{ちやう}茶^{ちや}師^し内^{うち}より^{より}
奥^{おく}洲^{しゅう}安^{あん}達^{だつ}系^{けい}人^{にん}肌^{かわ}茶^{ちや}師^し如^{ごと}く^く在^あ在^あ在^あ○田^{でん}向^{かう}院^{いん}の^の武^ぶ則^{そく}橋^{きやう}掛^か郡^{ぐん}山^{さん}に^に親^{しん}世^{せい}の^の閑^{かん}
帳^{ちやう}○目^め黒^{くろ}不^ふ動^{どう}の^の内^{うち}より^{より}之^の相^{さう}及^{じやく}大^{だい}山^{さん}林^{りん}藤^{とう}子^し安^{あん}地^ち孫^{そん}の^の閑^{かん}帳^{ちやう}○二^に回^{かい}喜^き日^{にち}明^{めい}神^{しん}

閑帳○田向院あり伊勢山田入門寺跡院如來 右刺支丹遊治 幡隨院感得 閑帳○淡草報恩

とふ^とる^る奥^{おく}州^{しゅう}南^{なん}に^に本^{ほん}誓^{せい}寺^{てら}親^{しん}習^{じゆ}上^{じやう}人^{にん}宝^{たから}物^{もの}を^を拜^をせ^せむ○二^に月^{げつ}廿^{にじゅう}日^{にち}夕^{ゆふ}七^{しち}ツ^ツ時^{とき}
神^{かみ}田^{でん}新^{しん}報^{ほう}所^{じよ}より^{より}出^で火^か小^{せう}風^{ふう}烈^{れつ}く^く蟻^{あひ}燭^{しやく}町^{ちやう}多^た町^{ちやう}堅^{けん}大^{だい}之^の所^{じよ}新^{しん}石^{せき}町^{ちやう}船^{せん}治^ぢ
町^{ちやう}西^{せい}側^{がわ}皆^{みな}川^{がは}町^{ちやう}永^{えい}富^ふ町^{ちやう}松^{しょう}下^げ町^{ちやう}鎌^{かま}倉^{くら}町^{ちやう}三^{さん}河^が町^{ちやう}本^{ほん}報^{ほう}町^{ちやう}一^{いっ}月^{げつ}本^{ほん}石^{せき}町^{ちやう}本^{ほん}
町^{ちやう}之^の町^{ちやう}目^め一^{いっ}石^{せき}橋^{はし}追^お燒^や日^{にち}夜^や八^{はち}ツ^ツ時^{とき}色^{いろ}船^{せん}治^ぢ橋^{はし}内^{うち}一^{いっ}飛^と火^か河^が門^{もん}院^{いん}明^{めい}六^{ろく}ツ^ツ時^{とき}獲^とる^る
韓^{かん}人^{にん}還^{えん}留^{りゅう}の^のち^ちを^をあ^あじ^じす ○二^に月^{げつ}中^{ちゆう}旬^{じゆん}平^{へい}賀^が鳩^{きう}漢^{かん} 右刺支丹遊治 幡隨院感得 閑帳○淡草報恩

火^か荒^{わう}布^ふ隔^{かく}火^か包^か紙^し之^の銘^{めい}
火^か荒^{わう}之^の布^ふ自^じ古^こ有^あり^り名^な彼^か安^{あん}造^{ぞう}説^{せつ}臆^{おつ}度^ど意^い量^{りやう}木^{もく}皮^ひ斯^す謂^い鼠^そ毛^{もう}南^{なん}荒^{わう}
或^{ある}果^{くわ}誣^{しゆ}理^り謂^い傳^{でん}者^{しや}安^{あん}津^{しん}濱^{ひん}造^{ぞう}物^{ぶつ}寧^{ねい}可^か推^お竊^{せつ}陽^{やう}中^{ちゆう}有^あり^り陰^{いん}陰^{いん}中^{ちゆう}有^あり^り陽^{やう}
入^い火^か不^ふ化^か柔^{じゆう}能^{ねい}制^{せい}剛^{かう}昔^{せき}彼^か西^{せい}戎^{じゆう}今^{こん}我^が東^{とう}方^{ほう}織^し成^{せい}素^そ纒^ま過^か以^い銀^{ぎん}
鑲^{じやう}下^げ片^{ぺん}隔^{かく}火^か百^{ひやく}姓^{せい}觀^{くわん}香^{かう}書^{しよ}堂^{だう}清^{せい}供^{きやう}繡^{しゆう}房^{ばう}風^{ふう}情^{じやう}
明^{めい}和^わ甲^が申^{しん}秋^{しゅう}八^{はち}月^{げつ} 大^{だい}日^{にち}本^{ほん}讀^{どく}岐^き 塩^{しん}溪^{けい}平^{へい}賀^が回^{かい}倫^{りん}創^{じやう}製^{せい}〇〇

○今年五月より昭和六年九月まで目黒村を敷地普請成 享保の末本倉基於
自主を裁言を再修する

○六月龜戸聖廟の傍に能人丈申 六人申

○六月の夜より深川 深川

○七月九日より十月十日迄護國寺を移す三十日番札所親善惣團 わがふ

○十月廿二日深川より 語元祖富本寺 とまじりておせん

○十一月朔日人妻正使廣谷山王 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつひとつりて深川流地法に

○十一月廿二日深川より 語元祖富本寺 とまじりておせん

○十一月廿二日深川より 語元祖富本寺 とまじりておせん

○十一月廿二日深川より 語元祖富本寺 とまじりておせん

○十一月廿二日深川より 語元祖富本寺 とまじりておせん

○十一月廿二日深川より 語元祖富本寺 とまじりておせん

不二 人々の心は波風もささるる君の代りたれはと初るぬ日の本は里

祝の心を 波風もささるる君の代りたれはと初るぬ日の本は里

○十一月廿八日能人活井奮宝卒 七十一才 西の年中
覚徳の功業に

○十二月町火消の内法曲梅道達十三組一就吐水を汲りあつる 中條の組に代りて
以て骨不出来たり

○十二月廿三日夜五半時村田園口町より出火しく村田町に於て焼明七の時終 たぬ

○閏十二月十七日卯六時浅草田町より出火しく大川端聖天町迄焼焼せり

昭和二年乙酉

二月日暮里妙隆寺太神宮奉地親迎鬼子母神祖師閣帳 ○谷中運ち

祖師閣帳 ○三月七日篠村師深井志道軒終 名葉山号を一事と云ふこと
傍之樹執師不惑願して杖を去りて

浅草花川戸を以て長巻といふは又位浅草寺境内において軍衣を講以てしるふ言を交へて人を
と絶園せしむ一室お供と女おれ必識するは甚一日に之をの語をぬるといふことばく個ふく
の終をさすは在世の日向ら肖像を画く捧ふ上で誠言せぬのひて人ふあふえりてさうさ
考以今年午也方あつて終るは浅草寺中金剛院は藝以男一女あり男を三女といふ禪を

形之助と稱するものあり
 志乃助が奇とて呼ぶものあり 拜世 未よりぬりと生れし月日は西と云く事由ゆ
 又同時小磯野瑞就軒といひ溝新師も書より生れしは男甚藏父の名を継て
 吉耕せり ○四月日光山所住万部所法會 ○飛戸村あり鉄砂を鑄るあり
 らる ○六月より平井法を講じといふ若深川所寄の東小沼除土年長十七町除言
 一丈二尺六寸ある踏式を築立新く小女万坪餘の地を宇記聖成年七月廿日
 日より塩を焼始む所の所を平井新田といひ江戸より見物の人懸りしが安永
 ありよりるもあつし止る 此の遊觀の所となりて大故庭といふ ○秋發切ある ○七月
 朔日より日向院より武及府中深大寺厄除元三大師開帳 ○同日より永代寺
 ありと發及富士裾野厚系等我八幡宮 秘藏 神像玉波明神 虎 開帳 ○同日
 日より日向院より梅田村不動尊開帳 ○七月廿三日三回善林寺齒吹河孫院如來
 坐像 ○八月三日大風も深川辺其餘亦上へ水来る ○八月十六日二朱判若吉鑄

死 八十余大 ○芝浦より一丈余の魚上る後西國橋畔より見せ物と云色白く鱗あり
 鮫の類の名をマンボウと云 ○九月五枚銀通用始る ○九月七日儒師長井嶽州

卒 名孝先称郡方丈 ○九月向後續き神田明神坐禮九月廿三日不没る神樂渡
 する所の町々横町のメ切神主於い小依く當年より柵を結ふる小成り

○十月廿八日儒師本村遠策卒 名貞賢字君忠 日野海記も小葬儀 ○十一月神田今川橋小左右火除
 土年再興 ○十二月神田依久町小醫學館建 多紀氏 基立 ○十二月四日益時目白

臺より出火夕七時迄燃る焼多し ○十二月廿九日書家関恩恭卒 台十 九才
 号風岡経海内小石川 林名寺小葬儀

明和三年丙戌

二月朔日より永代寺より三洲伊賀村八幡宮本地茶師如來開帳 ○二月
 廿日より所務前花徳院より三及碧海郡上重原村遍照院弘法大師開帳

○二月廿九日塚所焚付油の店音羽より失火してある所の芝居敷焼、大風よ
しと焼度より因獄の辺に至る○三月十二日下谷溝の家より火車坂下まで
焼亡せり○四月朔日より日暮不動寺まで下野國岩山地蔵寺開帳
○同日より松天寺孫孫如來祐天傳正像開帳○同日より濃谷金五八幡
宮開帳○久保保法善寺七面明林開帳○四月朔日より回向院まで大和
郡原光寺天満宮南北十一面觀世音開帳○高田院八幡本地佛開
帳○谷中舟吉三郎鬼子母神祖師天満宮開帳○幡谷やま庄やま最
高不動寺開帳○芝居宿社地まで武州多摩郡國分寺藥師日光月
光并開帳○七月六日法水小日向小石川本所の辺分て水宮塔建立
○靈巖島理之地成り俗に藥師島といふ○七月朔日より回向院より
川崎真福寺茶師如來開帳○八月より回向院まで并茶川親福寺浦島

大和守佛親世書徳久末三郎開帳○八月日渡草子内松高院又六年壬辰
腹巻茶考開帳八月一日○八月二日より渡草子境内まで紀及加太渡島開帳本地
虚空藏菩薩開帳○護國寺より渡河富士山宗人の來迎三尊佛開帳
○渡草子推考より上谷甘樂郡白井原堂茶師如來圓光大師開帳
○彦戸やまぐち神願寺かみかみ越中池邊木敷林の萩を裁り見より毎年盛の以考裁
遊覧の地と成る善阿曇香師の説ふ此時代古國中の辺に盜賊徘徊して其來りの衣類
を剽奪する者ありと異名をけりて其を裁りて裁るといふありと
いふ事あり
○十一月六日御人柳前齊茶瓶率五十才御道徳性も小暮以菅林寺納納吟
一日小五千身移せりより子母と号
明和四年丁亥 九月間
正月元日未八刻より申刻迄日蝕あけふ二分○四月朔日より永代寺にて江及井生
島奈才天西玉札所親世書開帳○同日より保川御崎奈才天開帳○同日よ
回向院茶葉奈才天開帳○四月より日暮不動寺總權現金毘羅奈才天

開帳 ○四月より谷中本光吉祖師開帳 ○後町種子宮室塔より元二大師師孫塔
 ○相忍江の高下の宮弁才又開帳江戸より系譜多し ○園東川之河渡あり
 ○四月九日駒形町より出火後草子風雷神門焼る二神像金龍山の額を
 恙なく ○真先神明宮の地より辻大納言家長卿沖下持あり ○菅神
 の像より之勅請あり ○四月十二日儒師赤松太度卒 名弘 林言平 ○六月八日儒
 師服部仲英卒 名雄南郭の 甚子あり ○七月廿二日儒師大敷幾庵卒 名良真林名忠孝 後其実わちよ葉 ○
 七月廿四日神陰流叙術師長沼四郎左衛門國々卒 八十六 運よ葉 ○八月三日画人
 波辺湊水卒 年六十五 名從林名為麻布若孫よ葉 男七女對と云ふ小画を長し文政中卒也 ○八月十五日田丸八幡宮祭礼
 産子町より出火煉物より出火津鑿津樂坂の沖旅一返りまのり 生从来 中絶也
 ○十一月晦日儒師赤松少齋卒 名舊那太度の又之 麻布若孫よ葉 ○秋蟹切あり ○十二月五夜狼
 のるねをよる さうば 次金をよる十二枚の通用と成る ○十二月書家飯田百川 以中元

卒 名祝勝孫係口弁 慶海の門人より後董其昌を學ぶ近世 西久保青就よ葉 董帖を摹するより人より成るなり

明和五年戊子

正月廿七日英一蝶が養子一舟卒 徐保三弟名信然馬東惠為 本松兼教中頭兼院よ葉 ○二月廿日より
 王子権現王子稲荷明神開帳 ○二月三都より津土真宗の怪しき法儀
 を行ひ一りの刑せらる 怪まおと門徒と といふこれあり ○三月千駄が谷聖福寺如念勝観
 世音開帳 ○三月十六日より永代寺より京大原野春日明神開帳 ○三月
 廿日より三田八幡宮開帳 冥室を令れこれあり 号ける所の物 ○回向院より尾州野間の内海大
 河堂地蔵寺開帳 ○三月大師河原村百姓太郎左衛門砂糖を製法 製法 竹授
 を文る若多し紀尾名不圖舎おりの以より紀尾府城の為漢雜實在町あり雜實在何某製
 法を傳て此に在田丸小豆島村の田畑不甘蔗をう名てこれを製しける今此よ小製法ありの彼が
 傳を文る若多しといふ製法の子平賀越溪の物取品隆ふりつこの時代まで ○四月朔日
 砂糖不取し新集の物とのものなり 一より慶徳院より今般と和製の物なり
 より生る弘法寺祖師開帳 ○四月六日曉八時若原江戸町式丁より出火大

風より廓跡より以十軒送り焼亡也
明暦丁酉の翌年雨野に移りて焼失多しなり
悉く今午の今午廓中の二軒焼より九軒外宿石
社のついでに仮宅の五軒今午焼場
山谷新を越へて七日の百日の百商賣せり

○六月廿拾日通用始
伊文治の御座り
おのて候

○六月廿七日
八つ井井場
山門焼

○六月廿九日鳥越明神祭禮神樂を渡
産子所より出し体物を出也

○六月十六日夜四時五十分大雷
八つ井井場
山門焼

○九月十八日哥人村田妻郷卒
三才妻海の兄あり
津川奉教寺お葬り

明和六年己丑

正月五日書家河原頼房卒
各玄融牛込町
種王お葬り

○三月より浅草玉束ありて下総
のろ

○三月十日より飛戸天満宮内より越後より春日社本地親を音
孫不親音閑帳

○三月より護国寺ありて大和子島ありて大峰洋仗役
者閑帳

○四月朔日永代寺四國琴彈山

○四月七日より回向院ありて川口善光寺河原院如來閑帳
式内の社と云社人石津連と云この時巫女二人ありて
握りておのりて名姓はあつたりと云新妻喜信御供ふ
多く

○四月十八日より六月八
親世寺閑帳

○五月朔日より浅草権ありて常陸鹿島廣徳
日追浅草寺親世寺閑帳

○七月廿二日哥人村田妻道卒
妻海の又あり
津川奉教寺お葬り

○八月廿六日未刻
縮星といふ
乳星こと云

○七月廿二日
七月廿二日

○七月廿二日
七月廿二日

○七月廿二日
七月廿二日

○七月廿二日
七月廿二日

○七月廿二日
七月廿二日

○七月廿二日
七月廿二日

○七月廿二日
七月廿二日

町より出づ一休物せしむ

十月風邪

初

そは、秋のころいかに大か
あつたをいふ

運以下記ふあり

○十月十二日官儒青木崑陽先生卒

七十二才号草廬徐文菴云
漢唐草を他り始り

甘藷先生といひの同是漸来もの
後の山ふなる所の碑文をよむ

西面合落先生墓とあり右の方ふ如は舊以

享保二十年青木敦書蒙命種甘藷因人呼予曰甘藷先生甘
藷流傳使天下無餓人是予願也今作壽塚書石曰甘藷先生墓

左の方ふ云

君諱敦書字厚甫源姓青木氏号昆陽元禄十一年戊寅五月十

二日生明和六年己丑十月十二日終寿七十二葬于下目黒村
別野南

○十月廿六日金雕工演野政隨終

七十四才
称太郎

○十月晦日加茂真淵翁江戸終

七十三才
少林院

武江年表卷之五終

